

5月31日

(前時までの復習)

(課題につなげる問題)

一のくらいをたして10をこえるひっ算のし方を考えよう

再度、課題に振り返り、「一の位をたして10をこえたら」どうすればよかったかを全体で考え、まとめる。

前時までの復習をして、全員が花丸で授業に臨んでほしい。

$$\begin{array}{r} 34 \\ - 23 \\ \hline 57 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 34 \\ + 28 \\ \hline 12? \end{array}$$

一の位から移動した10の束の実物を貼る

1くり上がる

ちび字 小さめ

①一のくらのけいさん

②十のくらいに1くり上がる

③十のくらのけいさん

くり上げた1で  $1 + 3 + 2 = 6$

くらいをたてにそろえて

①一のくらのけいさん

$4 + 8 = 12$

②十のくらいに1くり上がる

③十のくらのけいさん

$$\begin{array}{r} 1 \\ 34 \\ + 28 \\ \hline 62 \end{array}$$

一のくらいをたして、10をこえたら、十のくらいに1くり上げる。(ちび字で書く)

①	②	③
$\begin{array}{r} 1 \\ 34 \\ + 29 \\ \hline 63 \end{array}$	$\begin{array}{r} 1 \\ 49 \\ + 23 \\ \hline 72 \end{array}$	$\begin{array}{r} 1 \\ 17 \\ + 76 \\ \hline 93 \end{array}$



発問：「1のくらいをたして10をこえたら」どうしますか。続きを書きましょう。学習課題に対する答え。(3~5分程度)

導入で提示した問題を計算する。



発問：ノートに書いたひっ算をときましょう。(30秒)

予想される児童の解

$\begin{array}{r} 34 \\ + 28 \\ \hline 52 \end{array}$	$\begin{array}{r} 34 \\ + 28 \\ \hline 512 \end{array}$	$\begin{array}{r} 34 \\ + 28 \\ \hline 62 \end{array}$
--	---	--

できない子もいるが、書いていれば、だいたい3パターンのだれかになっていると思われる。A4サイズ。用意しておく。

全員で縦に数え棒を下げた操作し10の束をつくったところで、「できたね!」と喜ぶ。その後、1のくらいにある10の束は「ここにあっているのか」問う。

予想される児童の考え

- ・「1のくらいをたして10をこえたら」の続きを書かせる。1のくらいをたして10をこえたら、十のくらいに1くり上がることがわかった。
- ・くり上がった1は、ちび字で書く。

※一の位で10のまとまりを束にして、十の位へ移動する操作は、ペアで協力して操作する。

※ペアの右側が一のくらの担当で数え棒のみ用意(輪ゴムを配布しておく)。左側が十のくらの担当で10の束のみ用意(位取り板を出しておく)。

※数え棒は、教師用のものをすべて80%のものをカラーコピーで用意すると、黒板に上手におさまる。

※10の位に移動する「1くり上がる」は、本時の大切な言葉。問いかけるが、ある程度で教師が出て、意味をしっかりとさえ、印象付けたいところ。矢印

②は「びよ〜ん」と伸ばし、一のくらいから十のくらいに移っていったことを印象づける。蛇腹におったものを使用し、可動式。